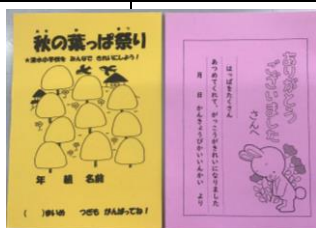


令和3年度（2021年度）学校版環境ISOへの取組

< 熊本市立清水小学校 >

1 取組の概要

項目	活動の様子（写真）	取組の実際
宣言		<p>宣言項目は「清水小エコダイエツト5キャンペーン」として以下の5つの項目に取り組んでいる。宣言は教室に掲示し、いつでも確認できるようにしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①持ち物には名前を書いて、物を大切にし、ごみを減らす努力をします。 ②手の平サイズより大きい紙は、紙ごみとして出し、リサイクル資源を大切にします。 ③教室を空ける時、廊下や階段・トイレ・体育館などを使用しないときは、電気をこまめに消して電気の使用量を減らします。 ④雑巾はバケツ1杯の水で洗い、蛇口はこまめに閉めて水の使用量を減らします。 ⑤給食では、自分の食べる量を考え、残菜を減らす工夫をします。 <p>◎「みどり」とふれあったり、環境について学習したりします。 ◎「秋の葉っぱ祭り」ボランティア活動で校内を美しくします。 ◎職員の宣言としては、会議法案の90%ペーパーレス化を目指す。</p>
行動	<div>  <p>ペットボトルキャップを持って来て、手渡し児童</p> </div> <div>  </div> <div>  <p>紙リサイクル</p> </div> <div>  <p>牛乳パックをまとめて回収場所へ運ぶ</p> </div>	<p>《環境美化委員会》</p> <p>① <u>ペットボトルキャップ回収</u> 毎週火曜日の朝7時45分からペットボトルキャップの回収を行っている。前日の昼の放送で全校児童に呼びかけ、家庭からペットボトルキャップを持って来てもらい、回収している。ペットボトルキャップの回収は1年生教室の廊下で行っている。1年時にキャップリサイクルについて理解してくれるので、その後上級生になっても協力してくれることが多い。中には保護者が職場から集めて持って来てくれることもある。また、教職員や給食室職員の協力も多い。集めたキャップは、校区内にあるリサイクル会社に届け、社会貢献活動にあてられている。</p> <p>② <u>紙リサイクル回収</u> ペットボトルキャップ回収と同時に、各クラスから出されたリサイクル用紙の回収も火曜日の朝、環境美化委員会で行っている。プリント類や習字練習半紙の他、「手の平サイズ以上の紙も袋にまとめて！」と回収を呼びかけている。</p> <p>③ <u>給食用牛乳パック回収作業</u>（給食委員会に協力） 全校児童が飲んだ牛乳の紙パックを回収される火曜日に回収場所へと運んでいる。大型ポリバケツから90リットルビニル袋6学年分を出し、3袋にまとめて運ぶのだが、十分に水切りされていないものがあつたり、臭いが強い物もあつたりする。昼の放送で「きちんと洗って水を切ってください」と呼び掛けている。美化委員会と給食委員会の児童は資源回収のために、手分けをして頑張っている。</p>



葉っぱ祭りカードと
ありがとうカード



団ごとに残菜
を集める食缶



畑のミニトマト



給食運動会の掲示

記録



④ 10月下旬から12月中旬まで「秋の葉っぱ祭り」を行った。環境美化委員会が中心となり、全校児童に呼び掛けて、毎朝正門付近の落ち葉掃きボランティア活動を行った。曜日ごとに参加学年を決めて行ったが、曜日に関係なく毎日のように参加してくれる児童がいた。参加した児童には環境美化委員が「葉っぱ祭りカード」を配り、シールを張った。カードは1枚に10このシールを張ることが出来た。毎日参加する児童は5枚ものカードを得ていた。活動が済んだ後、一度カードを回収し、「ありがとうカード」を添えてもう一度児童に返した。参加した児童は、ボランティア活動を行うとともに、校内にある樹木にふれ合い、秋の季節を感じられたようだった。

《給食委員会》

10月の運動会に向けての練習期間、給食委員会が「給食運動会」を実施した。給食の残食を赤・白・青、団ごとに計量し、残食の少なさを競った。毎日、掲示や放送で結果が報告されるので、各クラスで児童同士が励まし合いながら完食を目指していた。

《緑化委員会》

一人一鉢活動や緑の募金活動を行った。また「清水の森」にある畑で多種の野菜を育てることができた。

【エコダイエツトキャンペーン】

9月全校児童対象に「エコダイエツトキャンペーン」を行った。エコエコカードに自分の「エコエコ目標」を立て、5日間5つの項目で点数をつけていった。キャンペーンの始まりがリモート授業の最中だったため、数日間家庭での取り組みとなった。出されたカードの中から4人を選び、10月の「児童集会・環境美化委員会発表」(ビデオ集会)で感想とこれからの目標を紹介した。

・2年児童

ぼくの目標は「手を洗うときは水を止める」でした。これからは目標の全部を二重マルにして、環境をよくしていきたいです。

・3年児童

エコエコカードの目標を達成できることが多くなりました。エコエコ活動をこれからも頑張ります。

・5年児童

目標の「給食を残さず食べる」はできました。心を込めて「いただきます」が言えました。

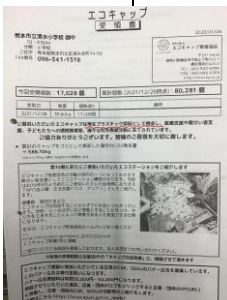




・6年児童

「自分の物に名前を書く」が○にしかできなかったの、次は◎にしたいです。

提出された全児童分のエコエコカードに、「頑張りましたね」「これからは環境のことを考えてね」等、環境美化委員がコメントを書いて返すことができた。普段の生活の中に、自分にもできる環境を考えた行動があることを、少しずつ意識できるようになっている。

《環境教育・水検定への取り組み》

4・5・6・年生約250名と職員数名が「くまもと水検定」に取り組んだ。児童は夏休みに家族で問題を解き、検定に臨んだ。結果、ほぼ全員が3級に合格し「団体認定証」をいただいた。

		<p>た。中には抽選でプレゼントに当選した児童もいて「来年また挑戦したい」と意欲を見せる児童もいた。</p>
<p>リサイクル会社から届いた受領書</p>	<p>汚れたキャップを取り出し洗浄します。</p>	<p>【ペットボトルキャップ回収】</p>
		<p>4月から集めたペットボトルキャップを校区にあるリサイクル会社に届けた。7月31日に届けたキャップは <u>24.2 kg</u>。12月28日分は <u>39.6 kg</u> だった。合わせると <u>63.8 kg</u>。キャップ約 <u>27500個</u> を回収し、可燃物として焼却された場合の約 <u>200 kg</u> の二酸化炭素発生を削減したことになる。集められたキャップは再生プラスチック原料として換金され、医療支援や障害者支援・子ども達への環境教育等、様々な社会貢献活動に役立てられた。</p>
<p>見直し</p>		<p>【秋の葉っぱ祭り】</p>
	<p>葉っぱ祭の様子</p>	<p>創立134年になる清水小学校は、銀杏・樺等の大木が多いため、毎年秋になると正門付近が落ち葉で埋め尽くされる。そこで今年度は、10月下旬から12月上旬まで「秋の葉っぱ祭り」と称して、落ち葉掃きのボランティア活動を行った。<u>100名</u>ほどの児童が参加した。中には毎日参加して、校内を清掃した児童もいた。始業前の楽しい遊びの時間を割いて落ち葉掃きに参加していて、感心させられた。校内の樹木から、季節感やボランティアの楽しさを感じてくれたのではないかなと思っている。教職員の協力参加も多かった。</p>
		<p>「エコダイエットキャンペーン」を行い、児童の環境への意識は少しずつ高まって来てはいるものの、「物を大事にする」という点では意識がまだまだ薄い。校内の落とし物が未だに多く、「持ち主探し」の箱を各クラスに回している。自分の物に記名する大切さを呼びかけなくてはならない。また、落とし物については、授業参観や学級懇談会で保護者が来校する機会に確認をお願いしていたが、現在はコロナ禍のため実施されていない。</p>

2 成果と課題

成 果	課 題
<p>今年度の取組も、環境美化委員会を中心に、いろいろな委員会、各学年の児童、担任、保護者の協力を得て行ってきた。昨年度に続き環境美化委員会に所属している6年生が多く、この児童らは意識も高い。ペットボトルキャップ回収や葉っぱ祭ボランティアについての放送の呼びかけなど、的確な内容の放送原稿を書いて全校にアナウンスしている。自主的に活動できることが多くなった。また、エコダイエットキャンペーンの取り組みの効果か、「環境を守るために、自分たちにどんなことができるだろうか」と考える児童が増えてきている。特に4年生は、廊下に自分たち専用のリサイクルボックスを備えて、ごみの分別を行っている。他にも、3年生の中には、夏休みの自由研究で「SDG's」について調べてきた児童や、1月に自主的に「温暖化をふせごう」のポスターを描いてきた児童もいた。児童の環境に対する意識が少しずつではあるが高くなってきていると思われる。</p>	<p>宣言項目に「節水・節電。昨年度比3%減」を掲げて活動してきたが、コロナ禍の折り、換気しながらの冷暖房、手洗い励行もあり、目標達成は難しかった。</p> <p>10月から行った「秋の葉っぱ祭」には100名ほどの児童が参加し、校内清掃のボランティア活動ができた。しかし全児童の約20%である。もっとたくさんの児童に参加してもらえよう、委員会や担任からも呼びかけを行っていかなければならない。</p> <p>また、ペットボトルキャップ回収がいつでもできるよう、各校舎に「キャップステーション」を作りたいと考えている。そして、「学校安心メール」で各家庭に「環境教育の取り組み」を発信していきたい。</p>



3年児童のポスター

